

(様式1)

## 自己評価票

作成日 平成 年 月 日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891900037		
法人名	株式会社 一陽		
事業所名	フレンズ牛久遠山479-1	ユニット名	B棟
所在地	〒300-1215 茨城県牛久市遠山479-1		
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	
------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日		評価確定日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>☆敷地内に畑があり利用者様と季節の野菜を作りそれを収穫し召し上がっていただいています。 ☆地域の行事に参加したりフレンズの行事・イベントにも参加してもらう等地域との関わりを大切にしています。 ☆敷地内にブルーベリーの木がありその季節になると入居者様と収穫しジャムを作りおやつの際に提供しています。 ☆入居者一人一人にあった個別のサービスを行っています。（散歩介助、買い物介助、通院介助） ☆一緒に洗濯物を干したり、洗濯物をたたんだりと家事の出来る事を役割に持って頂き満足感を得る様に援助しています。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先に施設の理念を掲げ職員は出勤時に再確認できるようにしている。 カンファレンス時理念にそった援助である事の確認をしています。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自次会に加入し地域のゴミ拾い運動会夏祭り、ラジオ体操等の行事に参加している。年一度地域の人達とバザー（日用品）模擬店（焼きそば、ソーセイジ）等えお企画し交流しています。又オカリナ、民謡、傾聴等のボランティアも定期的に訪問してくれている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知所に関するパンフレットを用意し、訪問してくれた家族、友人に配布し認知症の人の理解が出来る様配慮している。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している運営推進会議で市社協職員、民生員、区長、家族代表等に参加してもらいお互いに意見交換し地域の現状や家族の希望、施設の入居者の状況等報告をしあっている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には事業者の状態を常に報告し相談にのってもらっている。月に1回市から介護相談員が訪問してくれて利用者の希望等聞いて施設職員に知らせて頂き対応の改善をはかっている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や行動制限を行わない事を制約書に明記し職員の身体拘束に関する研修も行っています。施設の玄関等施錠をせず自由に出入り可能にしてあり、事故が起きない様に職員が常に見守りを行っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回行なうカンファレンスに於いて虐待の研修も行い実際行っている介護が適切なものであるか常に検討している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	特に認知症の方の施設である事を認識し権利擁護や成年後見制度の研修に参加し家族にアドバイスが出来るようにしている。	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約内容を詳しく説明し理解してもらっている。又分からない点はいつでも対応できるような体制を整えている。	
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	日常より入居者の意見は充分聞き実現できる物は取り入れるように協力している。又家族の意見も意見箱等を利用したり電話、手紙等で伺う機会を作っている。	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月1回のミーティングで意見を言ったり日頃から話し合える環境を作っている。又職員の業務の改善も遠慮なく言えるような環境作りをしている。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	職員個々の相談によくのり、生きがいを持って働けるよう職場環境作りを行っている。代表者、管理者、職員間のコミュニケーションがとれるように親睦会を行っている。	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修には積極的に参加してもらいたい。職員自身の介護能力を高めると共に施設全体のレベルアップを計り入居者の介護に役立てたい。	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	各種連絡協議会等に参加し同業者同士の交流を計っている。他の施設を訪問する事により自分の施設のサービスの質を考える機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを十分に聞き不安が少なくなるように早く信頼関係が築けるように協力する。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで介護してきた家族の立場の不安を出来るだけ多くとり除き全体像として一番よい方法をとらえていく
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在何が一番重要か優先順位を決め早急に実行していく。必要に応じて他のサービスを併用していく。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する家族として行動を共にし信頼関係を築くようにしている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に本人を支える一員となり支援している。又家族のきずなが保たれるように気を配っている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた人々との関係や馴染みの場所を共に大切にする事により本人との関係が途切れない様に援助していく。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に外出に出かけたりドライブや花見等でお互いに利用者同士が関わる機会を作っている。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	
			実 施 状 況	
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族に月1回発行するフレンズ新聞で近況を報告したり又時には施設を訪問していただいて相談等に行っている。	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より本人との会話を密にし本人の思いや希望を聴いている。又把握困難な人の場合はご家族から情報を得たりカンファレンス、モニタリング等で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートにより本人、家族より情報収集し今まで利用してきた施設等の情報提供等なるべく正確に詳しく経過が分かるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方の記録等により身体状態を把握し変化を見逃さない様にしている。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回全体のカンファレンスを行なっているが変化がある場合はその都度担当者で話し合いをあげている。なるべく関係者の多くの意見が反映した介護計画書を作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個々に具体的な記録に残し身体状況の変化に気をつけると共に職員間で情報を共有し介護計画の見直しを行っている。最近心身のレベルダウンがみられ介護度も上がっているためモニタリングの回数を増やしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者のニーズに対して、買い物、通院、散歩介助等個別のメニューで支援している。画一的なサービスではなく、その人に応じた細やかな支援を行っている。自室にこもりがちなが多いので職員の自室への訪問を多く状況を把握している。	

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	
			実 施 状 況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オカリナや民謡のボランティアとの交流、家族の訪問、民生員や区長地域の人々との交流を通じて楽しい変化のある生活が送れるように支援している。	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院により月二回の医師の往診を行っている。他に訪問歯科、皮膚科の往診を行っている又本人の希望により医療機関への通院介助等も行っている。結果は記録に残し情報は職員間嘉ザ区で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回医師の往診時に利用者の身体の状態を医師や看護師に相談し利用者の健康管理を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人が安心するように頻回に病院を訪問している。又病院関係者との連携をとり病状の経過を記録し家族に報告している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に関する説明を行い利用者、家族に同意を得ている。カンファランス時に看取り介護についての研修を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議の時に全員でマニュアルにそって急変時の対応の確認をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者をおき年2回訓練を実施している。玄関ソファの下に防火頭巾を備品としておいている。防火訓練時近隣の方々にも参加してもらっている。又緊急連絡網の作成も行いスタッフ会議で常に確認を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	
			実 施 状 況	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の呼び方や言葉使いに注意して接している。一人一人が自由にやりたい事をやれるような環境作りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすいような雰囲気を作り自分の思いを自ら言えるようにしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を大切にし畑で野菜作りをしたり、散歩したりと変化のある生活が出来る様支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容や買い物を実施。イベントや買い物、通院時は、特に本人の好むおしゃれが出来るように取りくんでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に出来る部分で参加してもらっている。メニューの記入、菜園からの収穫、野菜の皮むき等、個々の能力に応じて食事作りに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算をし栄養のバランスがとれるような献立を作成している。水分量は一日の摂取量を記録し不足しがちな人には、嗜好等考えてバラエティーに富だメニューを個々に提供している。	
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回訪問する歯科衛生士の指導を受けながら毎食後の口腔ケアを本人の能力に応じたやり方で支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は時間をみて、ほとんどの人をトイレに誘導している。夜間は個々の残存機能に応じて自室でポータブルトイレ等を利用している。夜間回数の多い人もなるべくトイレで対応するようにしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の生活パターンをよく理解し一日の運動量、水分量、排泄の確認をし便秘の予防をしている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2日に1回の入浴を実践している。利用者の希望を取り入れ嫌がる利用者には無理強いせずいろんな工夫をして入浴が出来るようにしている。入浴にも季節感を取り入れ楽しんでもらっている。（入浴剤を利用して）
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みのある寝具を使い利用者がゆっくり安眠出来る環境作りを心がけている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明を個々にファイル用法や用量の確認がいつでもできるようにしている。薬の変更があった場合は申し送りノート等を活用し職員全員の確認を行っている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の生活歴等考えてカラオケや野菜作り等個々の楽しみを大切にしている。嗜好品等も好みに合わせて提供できるようにしている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物支援は毎週取り組んでいる。季節に応じて桜見学や近くへのドライブ等行っている。ブルーベリー等をもいで食べたりして外気浴も楽しんでいる。庭にテーブルを置いてパラソル等設置し外気浴をしながらお茶を楽しむよう準備中。



自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の能力に応じて自己管理や支払が出来る様支援している。管理が難しい人は出納帳を利用し職員が管理し時々説明をしている。ご家族には2カ月に1回確認をしてもらっている。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>いつでも自由に電話が出来るようにしている。家族からの手紙は本人に大切に保管してもらいいつでも見れるようにしている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やリビングには季節の花を飾りメダカや亀等を飼育し共通の話題作りが出来る様に環境作りに取り組んでいる。行事ごとの利用者の写真を廊下に飾り家庭的な雰囲気を出し浴室、トイレも明るい清潔な感を維持している。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂の固定された席の他にテレビの前や玄関にソファーやテーブルをおき自由に利用出来るようにしている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはベット、テレビ、タンス、鏡台等馴染みの物が置かれている。その他本人の好きなぬいぐるみや椅子テーブル、家族の写真、アルバム等をおいている。又職員の手作りの作品も各部屋に飾られ心地よい雰囲気を作っている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下やトイレには手すりを設置し安全に移動できるようにしている。廊下は物を置かないにし歩行訓練が出来るようにしている。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない